

みわ かみすぎ  
「三輪の神杉」

（日本最古の神社「大神神社」おおみわじんじや）

うまさけ

はふり

いは

味酒を 三輪の祝が 斎ふ杉

たふ

手振れし罪か 君に逢ひがたき

作者…丹波大女娘子 たにはのおほめをとめ 卷四―七二二

（解説）三輪の杜の神官が大切に崇め奉る神木の杉に自分はいつの間にかひよつとして手を触れたその崇りたりでしょうか。いくらあの方たに逢おうとしてもお逢いできない、といぶかる。

・「味酒」―三輪の枕詞 ・「祝」―神官一般を言う。

（1）この歌に詠われている「三輪」は奈良県北西部にある奈良盆地の東南部、大和高原西南端（奈良県桜井市）に位置し古代から信仰の山で大和のシンボルの存在の山である「三輪山」の西麓に鎮座する「大神神社（三輪明神とも称する。」を指すといわれる。

（2）この三輪山そのものを御神体とする原始信仰から出発したときれ、我が国最古の神社の一つと呼ばれる「大神神社」の拝殿の右手前にこの歌に詠われている杉といわれる樹齡400年余りの杉の大木がある。この大杉は三輪のご祭神（大物主大神おおものぬしのおおかみ）の化身

の白蛇が棲む（伝承）といわれているところから「巳みの神杉」と呼ばれている。

（3） 太い幹がまっすぐに高く伸びる杉は、また常緑樹として一年中濃い緑の葉を茂らせる。こうしたことから古来、神木として神の宿るところに見立てられるのであろうとの説がある。

（参考文献）二川暁美著「山の辺の道を歩く」平凡社「寺院神社大辞典」等

（写生地）三輪山の麓に建つ大神神社拝殿と右手前に神木「巳の神杉」

を描く。 （池田杏花）

